

3つのポリシー

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

本学医学部では、建学の精神に基づき、新時代の医学知識と技術を身につけて科学的・倫理的判断能力及び情緒と品格を兼ね備えた教養豊かな人間性を培い、地域社会に奉仕できる医師の養成を目指します。カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムを履修し、卒業時能力達成基準（コンピテンス、コンピテンシー）に定める項目を身につけた学生に卒業を認定し、学士（医学）の学位を授与します。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

医師に求められる知識・技能・態度を、段階的、スムーズに修得できるように講義及び医療実習・臨床実習を1学年次から6学年次まで継続的、かつ、らせん状の学修方法にて積み重ねていきます。

学修内容が真の効果的な学びとなるように講義は単なる一方向性の座学ではなく、教員との双方向性のやりとり、学生間の意見交換・議論などのアクティブ・ラーニングを6年間通して行います。また、6年間継続する医療実習及び臨床実習では、常に、事前学習、実地体験、体験の振り返りのまとめとプレゼンテーションを行い、経験からの学びを深め、確実にそれらを身につけられるようにします。

これらによって修得された学びは、医学的知識を評価する試験だけではなく、シミュレーションを使った技能の評価、振り返り記述や多職種を含めた多方面からの態度評価など、多面的・複合的な方法によって学修成果の達成度を明らかにします。

- 1～4学年次まで継続的にプロフェッショナリズム科目（多職種連携教育 IPE を含む）を開講して、良き医療人としての在り方・資質について考え、目標を保ち続けるようにしている。さらに行動科学も、プロフェッショナリズム教育と連携し継続して行う。人間の行動をまず科学として捉え、さらに社会の中で患者・住民に寄り添う関係を考え、健康問題など予防医学的観点へ繋がる学修を目指す。
- 臨床の現場における学びを入学後早期から継続的に行うため、1学年次で「早期体験実習」、2学年次で「地域社会医学実習」、「チーム医療実習」、「外来案内実習」、3学年次で「地域包括ケア実習」、4学年次で「地域医療早期体験実習」を実施し、その後、4～6学年次でクリニカル・クラークシップ（診療参加型臨床実習）を実施する。様々な実習及びクリニカル・クラークシップでは、医学知識のみならず医師としての人間性を涵養する。（1～6学年次までの継続的な学び）
- 1学年次には、医学の基礎となる知識と概念を得るために医学に沿った自然科学科目とリベラルアーツを開講し、さらに「アカデミックリテラシー」による ICT（Information and Communication Technology）やアクティブ・ラーニングから自学自習の習慣をつける。
- 1学年次から解剖学、生化学及び生理学を開講し、早期から基礎医学領域の学びを開始することで、医学への関心を刺激し学修意欲を高める。

- 1 学年次に行う「早期体験実習」では、プロフェッショナリズムの一環として、目指すべき医療人、医療のあり方を理解するようにする。
- 2 学年次後学期までに「解剖学」、「発生学」、「生理学」、「生化学」、「薬理学」、「病理学」、「免疫・寄生虫学」及び「微生物学」等の基礎医学の講義、実習を実施し、臨床医学のための基礎を早期に築き上げることを目指す。
- 2 学年次で行う「地域社会医学実習」、「チーム医療実習」及び「外来案内実習」では、社会的存在としての患者、患者をケアする医療チームのあり方を体験する。
- 2 学年次に「基礎医学セミナー」を開講し、科学的探求心を涵養する。
- 3 学年次に EBM (Evidence-Based Medicine) と併せて社会医学科目である「公衆衛生学」、「衛生学」、「法医学」を実施し、患者を一人の人間、また社会の中で生活する住民として広い視野から理解できるように講義と地域の様々な施設・機関での実習を連動させる。
- 3 学年次で行う「地域包括ケア実習」では、超高齢社会での医療供給体制と社会に対する医療の責任についての理解を深める。
- 3 学年次からは、臨床医学総論として症候学、診断学及び検査学を学んだうえで、各科目を集中的に学修する臨床講義を実施する。また、医療安全の授業を実施し、医療の実践に必要な知識・技能を学ぶ。講義の最終日には科目毎に知識の定着を評価し、このことで継続的な自主学修も促す。
- 4 学年次には、医療と倫理の授業が行われる。
- 4 学年次前学期で臨床講義は終了し、前期終了時に CBT(Computer-Based Testing) を実施し、クリニカル・クラークシップに参加できる医学知識が身についているかどうかを総括的に評価する。
- CBT 後には、クリニカル・クラークシップに臨むための診断学、臨床・診断推論の知識、技能の修得のため、「臨床実習入門」を講義及び演習・実習にて実施する。
- 臨床実習入門後には、実際の診療のための手技を修得する基本手技・医療面接実習を実施し、この実習の総括的な評価を OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験) にて実施する。これに合格した学生のみがクリニカル・クラークシップに参加することができる。
- クリニカル・クラークシップ前に、地域医療早期体験実習を行う。地域社会の中における医療の理解をさらに深め、4 学年次後学期からのクリニカル・クラークシップにて常に地域社会を意識できるようにする。
- 4 学年次後学期から計 72 週のクリニカル・クラークシップを行う。クリニカル・クラークシップは、必修診療科ローテーションと選択診療科ローテーションの組み合わせにて実施する。大学病院の他、教育協力病院など地域医療機関での実習で多様な体験をし、大学病院と地域医療機関との連携についても理解し、コモンディジーズを診るプライマリ・ケアから高度先進医療まで幅広い診療技能を修得する。
- クリニカル・クラークシップ期間中には、総合試験を実施し、クリニカル・クラークシップで修得した医学知識の評価を行う。

■ クリニカル・クラークシップの診療技能評価は、臨床実習後 OSCE にて実施し、本学独自の技能課題も取り入れる。

■ 6 学年次後学期に総合試験を実施し、6 年間の医学知識の総括的評価を行う。クリニカル・クラークシップの評価、臨床実習後 OSCE 及び総合試験の全てに合格することによって、本学医学部を卒業する資格を得ることができる。

【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

本学医学部のカリキュラムを修得し、卒業時に求められる能力を身につけることができる者として、次の能力を持つ者を求めています。

求める学生像

1. 医学への強い志向と学習意欲を持つ人
2. 医学を学ぶために必要な基礎学力と問題解決能力を備えた人
3. 人間性と教養が豊かで、倫理的価値判断に優れた人
4. 協調性を持ちコミュニケーション能力に富んだ人
5. 誠実で常に努力を怠らない人

本学医学部が求める学生を受入れるための入学者選抜は、次の方針により実施します。

1. 医学部の学生として相応しい基礎的学力の到達度を確認するため、理科・数学・英語の筆記試験を実施します。
2. 医師として求められる倫理的価値判断、感性、コミュニケーション能力などを判断するため、面接試験及び小論文試験を実施します。

本学医学部の学生は、医師国家試験の合格という大きな目標の達成だけでなく、医師に相応しい教養や感性（情緒と品格）を持つことが求められます。入学者の選抜においては、基礎的学力のみでなく、思考力・表現力・学ぶ意欲・コミュニケーション能力なども重視します。また多様な学生の受入れのため、一般入学試験のほかに国際バカロレア入学試験など多様な入学者選抜を実施します。